

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成30年7月10日 VOL. 64

多職種・多機関による意見交換会「在宅医療部会」に100人参集！



平成30年7月9日（月）19時より、志太医師会講堂を会場に、第37回在宅医療部会（平成30年度初回）が開催されました。（主催：志太医師会 藤枝市委託事業）**今回のテーマは「在宅生活に関わる情報共有に関する検討会」**として残薬情報の共有やその確認方法を切り口に4部構成で行いました。医師・薬剤師・ケアマネ・介護職・看護師や安心すこやかセンター専門職など、約100人が参加しました。

第1部 杉浦医師：講演

志太医師会在宅サポートセンター長の杉浦正司医師（介護老人保健施設ユニケア岡部）が「**高齢者の医薬品適正使用、服薬管理、情報連携について**」と題し、講演を行いました。

日頃の診療場面から「なんでこんなに自宅に薬が残っているんだろう」という疑問や、本年5月に厚労省が出した「高齢者の医薬品適正使用の指針（総集編）」に触れ、高齢者の薬物療法の原則を8点にまとめて教示しました。

- 1 処方薬剤の数を最小限にする
- 2 服用法を簡便にする
- 3 なるべく一元化する
- 4 明確な目標とエンドポイントに留意する
- 5 生理機能に留意して用量を調整する
- 6 定期的に処方内容を見直す
- 7 新規症状出現時は、まず有害作用を疑う
- 8 治療目標は個別化(糖尿病・高血圧等)

第3部 藤枝薬剤師会から

藤枝薬剤師会西村充司薬剤師（エムハート薬局）より「残薬調整にかかわる薬剤師の取組み」として他職種への協力依頼がありました。次いで、**藪崎覚薬剤師（至誠堂薬局）**から県薬剤師会の①在宅業務普及促進 ②在宅医療等の体験、普及啓発 ③多職種意見交換会等の開催事業を受託する話題提供があり、「**薬剤師の体験在宅訪問**」を活用して、在宅での薬の管理や残薬調整を行うことについて提案がありました。

第2部 シズケア＊かけはしの感想

医療と介護の情報共有や、連携を強化するための**ICT活用ツール**である「シズケア＊かけはし」システム利用者からの声

三輪医院居宅介護支援事業所 水野ケアマネ

- 利用者さんの状態が変化した時に、関係者への連絡が一斉にできて便利
- 褥瘡などの写真が添付できる

志太訪問看護ステーション 大石看護師

- 相手の時間を気にせずに連絡できる
- メールの既読確認ができるので安心する
- 市域をまたいでつながることができる

第4部 多職種グループワーク

医師や薬剤師から「**いづご飯を食べているのかなど生活の情報が役に立つ。**」と介護職やケアマネに情報提供を求める声があり、ケアマネからはメール等を利用して「**時間を気にせず連絡したい**」等の希望がありました。電話は緊急度が高い場合に、FAXは緊急度は低い重要な情報伝達等に手段を使い分けているという意見もありました。しかしFAXは誤送信の危険があり、ICTの活用も含め、情報伝達手段は今後も継続して検討していくべき課題であることを確認しました。

